



(19)

(11) Publication number: **200**

Generated Document.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN(21) Application number: **10358691**(51) Intl. Cl.: **A47B 3/10 A47B 3/06 A47B**(22) Application date: **17.12.98**

| | |
|--|--|
| (30) Priority: (43) Date of application publication: 27.06.00 (84) Designated contracting states: | (71) Applicant: IMOTANI:KK (72) Inventor: IMOTANI MITSURU (74) Representative: |
|--|--|

(54) PORTABLE FOLDING TABLE

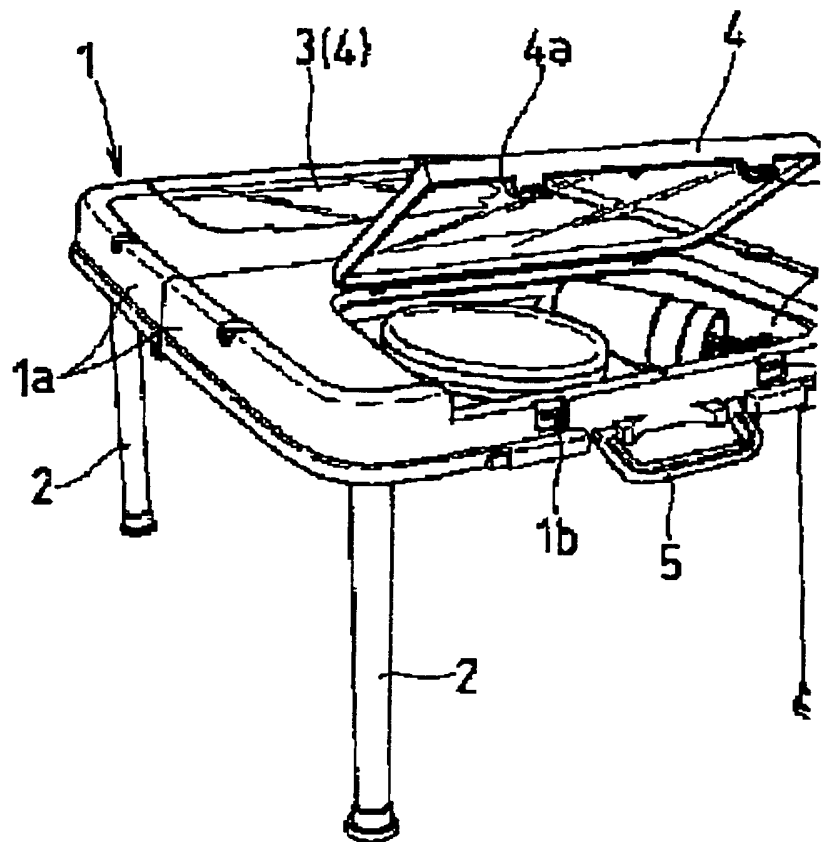
(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a portable folding table formed to store tableware in the state of being isolated from legs so as to keep the tableware clean.

SOLUTION: This portable folding table has a tableware storage part 3 formed by recessing the upper face of a top plate 1 of twofold structure, and a leg storage part formed at the back face of the top plate 1, isolated from the tableware storage part 3. It is preferable to provide the tableware storage part 3 closably with a cover 4 so as to be flush with the upper face of the top plate 1. Furthermore, the tableware storage parts 3 are formed on both sides with the twofold part of the top plate 1 placed in between. The tableware storage part 3 comprises a deep part and a shallow part, and it is preferable that one deep part is in a position corresponding to the other shallow part when folding the top

plate 1 in two. It is further preferable to form each tableware storage part 3 along the side edge of the top plate 1 and to provide the outer part of the cover 4 with a locking piece 4a engaged/disengaged with the side edge of the top plate 1.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-175746
(P2000-175746A)

(43)公開日 平成12年6月27日(2000.6.27)

| (51)Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | テマコード [*] (参考) |
|--------------------------|------|---------|-------------------------|
| A 4 7 B | 3/10 | A 4 7 B | A 3 B 0 5 3 |
| | 3/06 | | D |
| | 3/12 | | B |

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平10-358691

(22)出願日 平成10年12月17日(1998.12.17)

(71)出願人 000140018

株式会社イモタニ

大阪府八尾市東山本新町8丁目15番5号

(72)発明者 芋谷 充

大阪府八尾市東山本新町8丁目15番5号

株式会社イモタニ内

(74)代理人 100072213

弁理士 辻本 一義

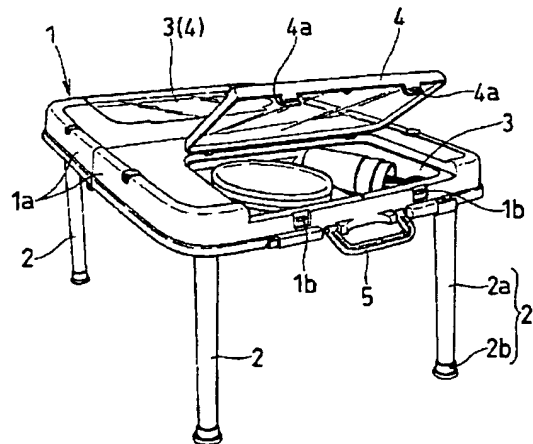
Fターム(参考) 3B053 FA07 KA01 LA01

(54)【発明の名称】 携行用折り畳みテーブル

(57)【要約】

【課題】 食器類を脚から隔離して収納できるようにし、食器類を清潔に保てるようにした携行用折り畳みテーブルを提供することを目的とする。

【解決手段】 二つ折り構造とした天板1の上面を窪ませて食器類の収容部3を形成すると共に、天板1の裏面に前記収容部3と隔離して脚の収容部6を形成した携行用折り畳みテーブルとした。前記食器類の収容部3に天板上面と面一になる蓋4を開閉自在に設けることが好ましい。さらに、食器類の収容部3が天板1の二つ折り部を挟んで両側に形成されていると共に、食器類の収容部3が深い部分と浅い部分からなり、天板1を二つ折りにした際に、一方の深い部分が他方の浅い部分の対応する位置にあるようにしたものとする。またさらに、食器類の収容部3を天板1の側縁に沿って形成し、蓋4の外側部に天板1の側縁に係脱する係止片4aを設けることが好ましい。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 二つ折り構造とした天板(1)の上面を窪ませて食器類の収容部(3)を形成すると共に、天板(1)の裏面に前記収容部(3)と隔離して脚の収容部(6)を形成したことを特徴とする携行用折り畳みテーブル。

【請求項2】 食器類の収容部(3)に天板上面と面一になる蓋(4)を開閉自在に設けたことを特徴とする請求項1記載の携行用折り畳みテーブル。

【請求項3】 食器類の収容部(3)が天板(1)の二つ折り部を挟んで両側に形成されていると共に、食器類の収容部(3)が深い部分(3a)と浅い部分(3b)からなり、天板(1)を二つ折りにした際に、一方の深い部分(3a)が他方の浅い部分(3b)の対応する位置にあるようにしたことを特徴とする請求項1又は2記載の携行用折り畳みテーブル。

【請求項4】 食器類の収容部(3)を天板(1)の側縁に沿って形成し、蓋(4)の外側部に天板(1)の側縁と係脱する係止片(4a)を設けたことを特徴とする請求項2又は3記載の携行用折り畳みテーブル。

【請求項5】 脚(2)を4本天板(1)の裏面四隅に着脱自在に取り付けるようにすると共に、取り外した4本の脚(2)を保持する保持部(6)を天板(1)の裏面に設けたことを特徴とする請求項1、2、3又は4記載の携行用折り畳みテーブル。

【請求項6】 略コ字形に形成された2個の脚(2)を天板(1)の左右に回動自在に取り付けたことを特徴とする請求項1、2、3又は4記載の携行用折り畳みテーブル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、ピクニック等、主に屋外で使用する携行用折り畳みテーブルに関するものである。

【0002】

【従来の技術】ピクニック等で使用する携行用折り畳みテーブルは、携行するときに便利なように、天板が二つ折り構造になっており、脚が天板に着脱自在若しくは折り畳み自在に取り付けられており、さらに脚は天板の裏面に収納されるようになっていた。

【0003】またさらに、ピクニック等で使用する食器類も天板の裏面に収納されるようになっていた。

【0004】そのため、食器類が、泥や砂で汚れた脚と一緒に収納されるため、不潔になりやすいという問題点があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】そこでこの発明では、上記従来の問題点を解決するためになされたもので、食器類を脚から隔離して収納できるようにし、食器類を清潔に保てるようにした携行用折り畳みテーブルを提供す

ることを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】そのため、この発明では、二つ折り構造とした天板1の上面を窪ませて食器類の収容部3を形成すると共に、天板1の裏面に前記収容部3と隔離して脚の収容部6を形成した携行用折り畳みテーブルとした。

【0007】このようにすれば、食器類の収容部3が脚の収容部6と隔離されているので、食器類の収容部3に収納された食器類が脚2に付着した泥や砂で汚れることがない。

【0008】前記の構成に加え、食器類の収容部3に天板上面と面一になる蓋4を開閉自在に設けることが好ましい。

【0009】このようにすれば、テーブルを展開して使用しているときに、蓋4が邪魔にならない。

【0010】さらに、食器類の収容部3が天板1の二つ折り部を挟んで両側に形成されていると共に、食器類の収容部3が深い部分3aと浅い部分3bからなり、天板1を二つ折りにした際に、一方の深い部分3aが他方の浅い部分3bの対応する位置にあるようにしたものとするのが好ましい。

【0011】このようにすれば、深い部分3aを天板1の厚みよりも深くすることができ、コップのような厚みのあるものでも収納できるようになる。

【0012】またさらに、食器類の収容部3を天板1の側縁に沿って形成し、蓋4の外側部に天板1の側縁と係脱する係止片4aを設けたものとするのが好ましい。

【0013】このようにすれば、蓋4の係止片4aに指が掛かりやすくなる。また、脚2を4本天板1の裏面四隅に着脱自在に取り付けるようにすると共に、取り外した4本の脚2を保持する保持部6を天板1の裏面に設けることが好ましい。

【0014】このようにすれば、携行時に脚2が移動しなくなる。また、略コ字形に形成された2個の脚2を天板1の左右に回動自在に取り付けたものとするのができる。

【0015】このようにすれば、脚2の展開・収納が容易になる。

【0016】

【発明の実施の形態】図1は、この発明の携行用折り畳みテーブルの使用時の状態を示す斜視図、図2は折り畳み時の状態を示す斜視図、図3は食器類の収納部の斜視図、図4は脚の取り付け状態を説明する天板をひっくり返したときの斜視図、図5は脚の収納部の状態を示す斜視図、図6は脚の他の実施例を示す斜視図である。以下、この発明の携行用折り畳みテーブルの構成について、これらの図面に基づき説明する。

【0017】この発明の携行用折り畳みテーブルは、図

1に示すように、天板1と、天板の四隅に取り付けた4本の脚2からなり、天板1は中央で二つ折り構造となっている。

【0018】さらに詳しく説明すると、天板1は、合成樹脂からなる天板本体1aを2個並べて端部を回動自在に連結したものであり、天板本体1aの上面には、天板上面より窪ませて形成された食器類の収容部3が形成されている。食器類の収容部3には、透明又は半透明の合成樹脂からなる蓋4が蝶着されて開閉自在となっており、蓋4を開めたときには、蓋4が天板上面と面一になるようになっている。また、食器類の収容部3の内部は、略中央を境にして深い部分3aと浅い部分3bから成っており、深い部分3aにコップのような厚みのあるものでも収納できるようになっている。

【0019】この天板1は、前述の通り、2個の同一形状の天板本体1aを回動自在に連結したものであるので、食器類の収容部3は天板1の二つ折り部を挟んで両側に形成されているようになっている。

【0020】また、食器類の収容部3は、略中央を境にして深い部分3aと浅い部分3bからなるものであるので、天板1を二つ折りにした際に、一方の深い部分3aが他方の浅い部分3bの対応する位置にあるようになっている。そのため、深い部分3aは、天板本体1aの厚みよりも深く形成でき、コップのように厚みのあるものでも収納できるようになっている。

【0021】またさらに、食器類の収容部3は、天板1の側縁に沿って形成されており、蓋4の外側部に天板1の側縁の突起1bと係脱する係止片4aを設けており、蓋4の係止片4aに指が掛かりやすく、蓋4の開閉操作がしやすくなっている。

【0022】また、天板1の両側縁の中央には、把手5をそれぞれ取り付けている。天板1の裏面には、図4に示すように、脚2の収容部6を形成している。この脚2の収容部6は、前記食器類の収容部3と隔離されているので、食器類が脚2に付着した泥や砂で汚れないようになっている。

【0023】脚2の収容部6は、二つの脚挟持具7が一体に形成されており、脚2を2本挟持できるようになっている。さらに詳しく説明すると、図5に示すように、脚挟持具7は、長方形の枠形状をしており、長辺側の側面には脚2の外周面に沿う凹部7aが二つ形成されており、短辺側の側面には脚押さえ片7bが延設されており、凹部7aと脚押さえ片7bとで脚2を挟持できるようになっている。

【0024】またさらに、天板1の裏面の四隅には、脚2の上端を嵌入して着脱自在に係止可能な穴8が形成されている。

【0025】脚2は、合成樹脂製のパイプ2aであり、下端にゴム又は軟質合成樹脂からなるキャップ2bを被せたものである。

【0026】以上が、各構成部品の説明であり、次のようにして使用する。この発明のテーブルを執行するとき、図2に示すように、天板1を二つ折りにし、把手5の両側に設けたバックル9で開かないように止めておく。

【0027】図2には図示していないが、食器類の収容部3には、皿、コップ、フォーク、スプーンを収納しておく。

【0028】目的地に着いたら、天板1を広げ、脚2を図4に示すように、脚2の収容部6から外し、天板1の四隅の穴8に嵌入して立てる。

【0029】すると、図1の状態になる。この状態で、食器類の収容部3の蓋4を開け、食器類の収容部3に収納された皿やコップ等を必要な分だけ取り出す。

【0030】このとき、食器類の収容部3の蓋4は、天板上面と面一であるので、蓋4が邪魔になることがない。

【0031】また、食器類の収容部3は、天板1の側縁に沿って形成されており、蓋4の外側部に天板1の側縁の突起1bと係脱する係止片4aを設けてあるので、蓋4の係止片4aに指が掛かりやすく、蓋4が開けやすくなっている。

【0032】以上が実施例の説明であり、脚2を天板1の四隅の穴8に嵌入して取り付けようにした例を示したが、略コ字形に形成された2個の脚2を天板1の裏面に回動自在に取り付けたものとしてすることができる。

【0033】このようにすれば、脚2の展開・収納が容易になる。

【0034】

【発明の効果】以上のように、この発明の携行用折り畳みテーブルでは、二つ折り構造とした天板1の上面を窪ませて食器類の収容部3を形成すると共に、天板1の裏面に前記収容部3と隔離して脚の収容部6を形成した携行用折り畳みテーブルとしており、食器類の収容部3が脚の収容部6と隔離されているので、食器類が脚に付着した泥や砂で汚れることがないので、食器類を清潔に保つことができる。

【0035】請求項2記載の発明では、前記の構成に加え、食器類の収容部3に天板上面と面一になる蓋4を開閉自在に設けており、天板1を展開して使用しているときに、蓋4が邪魔にならないので、前記効果に加え、使いやすいものになる。

【0036】請求項3記載の発明では、請求項1又は2記載の構成に加え、食器類の収容部3が天板1の二つ折り部を挟んで両側に形成されていると共に、食器類の収容部3が深い部分3aと浅い部分3bからなり、天板1を二つ折りにした際に、一方の深い部分3aが他方の浅い部分3bの対応する位置にあるようにしたものとしており、深い部分3aを天板1の厚みよりも深くすることができ、コップのような厚みのあるものでも収納できるようになる。

ので、より一層使いやすい便利なものになる。

【0037】請求項4記載の発明では、請求項2又は3記載の構成に加え、食器類の収容部3を天板1の側縁に沿って形成し、蓋4の外側部に天板1の側縁に係脱する係止片4aを設けたものとすれば、蓋4の係止片4aに指が掛かりやすく、蓋4の開閉操作がしやすくなる。

【0038】請求項5記載の発明では、請求項1、2、3又は4記載の構成に加え、脚2を4本天板1の裏面四隅に着脱自在に取り付けるようにすると共に、取り外した4本の脚2を保持する保持部6を天板1の裏面に設ければ、携行時に脚2が移動しなくなり、運搬時に脚2が安定した状態になる。

【0039】請求項6記載の発明では、請求項1、2、3又は4記載の構成に加え、略コ字形に形成された2個の脚2を天板1の左右に回動自在に取り付けたものとすれば、脚2の展開・収納が容易になり、便利なものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の携行用折り畳みテーブルの使用時の状態を示す斜視図である。

【図2】この発明の携行用折り畳みテーブルの折り畳み時の状態を示す斜視図である。

【図3】この発明の携行用折り畳みテーブルの食器類の収容部の斜視図である。

【図4】この発明の携行用折り畳みテーブルの脚の取り付け状態を説明する天板をひっくり返したときの斜視図である。

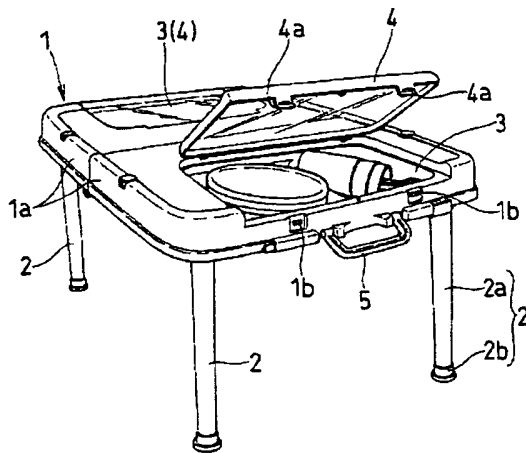
【図5】この発明の携行用折り畳みテーブルの脚の収容部の状態を示す斜視図である。

【図6】この発明の携行用折り畳みテーブルの脚の他の実施例を示す斜視図である。

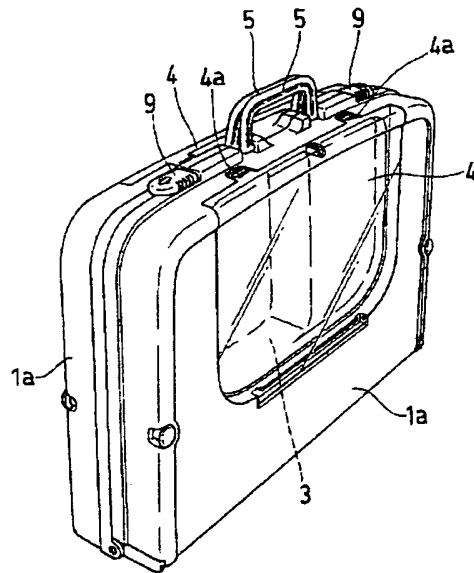
【符号の説明】

- 1 天板
- 2 脚
- 3 食器類の収容部
- 3a 深い部分
- 3b 浅い部分
- 4 蓋
- 4a 係止片
- 5 把手
- 6 脚の収容部
- 7 脚挟持具
- 8 穴
- 9 バックル

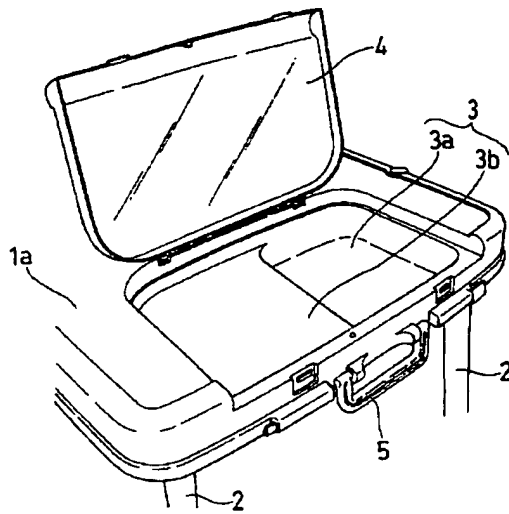
【図1】



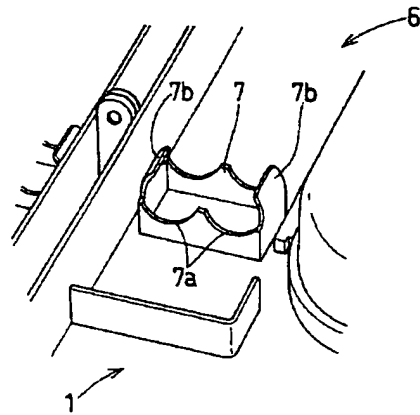
【図2】



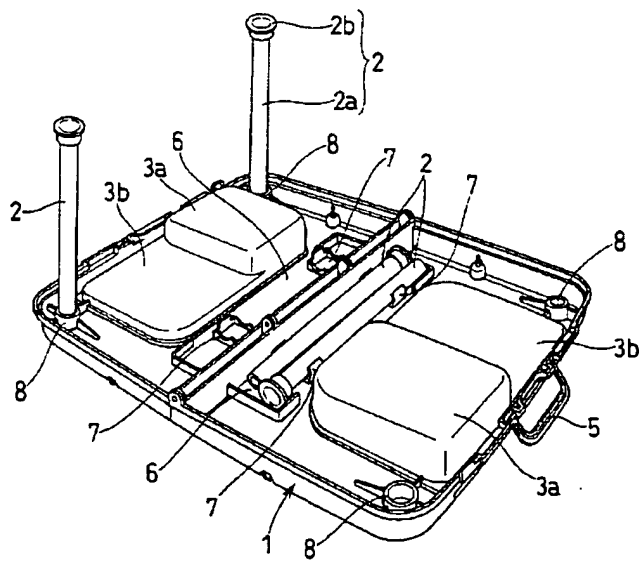
【図3】



【図5】



【図4】



【図6】

